

サハリン大地震緊急救援活動

災害発生:1995.5.28サハリン州北部ネフェゴルスク(M7.6)
 救援期間:1995.5.30~1996.2.29

第1期(1995.5.30~7.13)
 AMDA(岡山市)との連携で、チャーター便による物資運搬(第1便)と現地視察に1名同行(6.2~6.9)。物資第2便は3名が同行し船で川崎港より出港。サハリン州に到着後は鉄道・トラックで被災地まで運搬(6.24~7.7)。
 第2期(1996.2.29)
 1996.9.27~29 草地代表が北海道に出張しサハリン緊急救援活動に関わる団体と情報交換。
 1996.2.19~29草地代表がハバロフスク、ユジノサハリンスク、北海道に出張しサハリン緊急救援活動のフォローアップ。
 救援基金総額:¥9,670,783(313口)
 救援物資:約70t(コンテナ13本)・衣類・簡易コンロ・ポンペ・車イス等

1996年3月15日

各位

阪神大震災地元NGO救援連絡会議
 代表 草地賢一

サハリン大地震緊急救援活動終了報告

(はじめに終了報告が非常に遅れたことを心からお詫び申し上げます。第1の理由は物資・義援金受付終了後、約四ヶ月にわたって送られてきた義援金の適切な使途を決定するのに2月末までかかったこと、第2の理由は私たち自身の被災救援活動の整備に時間がかかり、かつ被災1周年の1月時期に相前後してきわめて多忙であったことなどであります。昨年10月と本年2月の二度にわたって北海道を訪問し、サハリンへの支援活動を続けている団体(北海道YMCAなど)との調整をいたしました。また2月5日~8日はサハリンから支援団体を神戸に迎え意見交換をしました。さらに2月19日~26日、被災者をハバロフスク、ユジノサハリンスクに訪ねその現状把握に努めました。併せてサハリンでは州政府、支援団体(サハリン教会など)を訪ね意見交換をいたしました。これらの調査のまとめは以下のようになります。

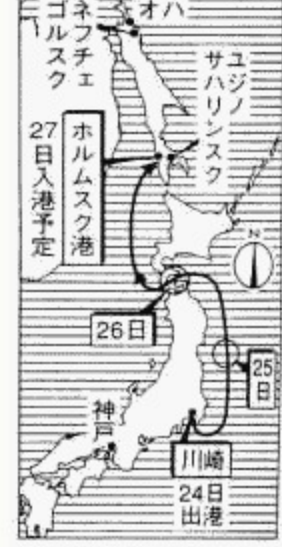
- 被災者の現状**
 緊急事態が過ぎ、生存者は生活再建への努力を始めている。約800人の生存者の内、1割あまりが被災地ネフェゴルスクの最寄りの町(約90km北方)オハにおり政府の援助を待っている。ユジノサハリンスクには250人弱の被災者が移住し、その一部は大陸への移住を希望・待機している。中には(なか)の治療で入院中のものもいる。ハバロフスクには約150人以上の人が移り住事を始めたもの、待機中のものもいる。その他は中央、極東ロシア各地に既に移住した。今主としてサハリン州に残存している被災者たちの最低限の生活は維持されているようであるので、生活援助のためのモノ、カネの支援よりもモラルサポート(精神的支援)が望ましい。
- 政府からの援助**(但し経済悪化のためまだ50%くらいの被災者にしか実現してない)の事
 - 医療 全て政府の負担
 - 住居 恒久住宅を移住先で供与
 - 生活再建 一世帯当たり5,000万ルーブルの緊急援助、死亡者一人につき5,000万ルーブルの弔慰金、葬式費用として2,000万ルーブルを支給。
- 民間の支援**
 - サハリン ユジノサハリンスク市内のサハリン教会が被災移住者に現在定期的な問安活動を続けている。
 - 大陸 少なくともハバロフスクにはない。
 - 北海道 北海道YMCAを中心にキリスト教会、国際ボランティア団体、行政などが協力して、被災者の青少年を北海道に招き交流を続けている。

このまとめに基づいて別項の会計報告にあるように、私たちの預かった12月末までに寄せられた義援金は、北海道の人々が進める被災者激励の青少年交流の資金として、送り出し側のサハリン教会と受け入れ側の北海道YMCAに委託させていただきました。ご協力下さったすべての方々に、心からの感謝を持って終了報告を申し上げます。終わりに、この度の緊急救援物資輸送について特に以下の団体のお名前を記して、格別の感謝の意を表させていただきます。

アジア医師連絡協議会(AMDA) 阪神大震災ちびくろ救援ぐるうぶ
 日本内航海運組合総連合会 アドラ(ADRA)国際援助機構 (順不同)

サハリン地震救援活動記録

5/25(日)	午前11時、地震発生(日本時間27日22時) ~以下、サハリンでの項目は現地時間~
5/30(火)	草地、AMDA菅波代表と電話。 物資とりまとめと資金提供を申し出る。 関係団体に物資集結を呼びかける。 実吉、岡山に向かうことに
5/31(水)	「緊急援助物資調達可能リスト」作成 夕方:ちびくろ集積所より岡山へ向けて物資第1便出発
6/1(木)	朝:神戸市の物資、積み込んで神戸出発 昼:中央区ボラの物資、神戸出発 夕方:ちびくろの物資集積所から出発 岡山空港で荷造りのため、ボランティア2名出発
6/2(金)	NGO実吉、AMDA第2次派遣団に加わりチャーター便で岡山空港出発
6/7(水)	物資第2便は船便に決定
6/9(金)	AMDA第2次派遣団帰国(実吉含む)
6/10(土)	第2便の物資手配
6/14(水)	ちびくろ集積所・岡山等からトラック出発 物資の仕分け作業打合わせ、高圧ガス通関手続きのため坂本、横浜に
6/20(火)	白鳥、本牧で仕分け手伝いとコンテナ積み込み、通関に立ち会い
6/21(水)	御蔵小学校、西谷先生「子供たちの手紙」ロシア語訳を持参
6/22(木)	夕方、坂本、実吉神戸発
6/23(金)	コンテナ、船に積み込み 3人(坂本・実吉・白鳥)通関・出国手続
6/24(土)	9時20分、ロシア船オホーツクエ号川崎港出港
6/26(月)	松村飛行機で出発、夜ユジノサハリンスク着
6/27(火)	18時サハリン、ホルムスク港入港(松村、ADRA塚本出迎え) 船内で入国及び物資書類審査
6/28(水)	コンテナ陸揚げ、内容品検査、通関手続き シネゴルスクの孤児収容施設訪問(ゆいぐるみ・作文手渡す) サハリン州政府、福祉司を訪問 物資北部輸送は鉄道→トラックに決定
6/29(木)	午後坂本、塚本(ADRA)帰国
6/30(金)	松村帰国 22時半:実吉、白鳥ユジノ発夜行列車で出発
7/1(土)	14時:実吉、白鳥ノグリ着
7/2(日)	早朝コンテナ、ノグリ着 13本確認
7/3(月)	午前:白鳥、コンテナを開けて物資の確認・整理 物資、トラックに積んで出発(白鳥同行) ネフェゴルスクに到着 実吉帰国
7/4(火)	坂本、神戸記者クラブで帰国報告 物資をトラックよりおろし、屋内に搬入 午後ネフェゴルスクの被災者へ物資の受け渡し開始 19時:白鳥、オハ発 ユジノサハリンスクへ
7/7(金)	白鳥帰国



(7/13 サハリン現地報告会で発表)

その後の活動報告

7/13	サハリン現地報告会 会場:神戸YMCAチャペル 時間:18:30~21:00 内容: ビデオ上映~現地の様子 報告~サハリン支援活動の概要 救援物資搬送作業の経過と課題 参加人数:約20人
9/27~29	草地代表、北海道出張 目的:サハリン緊急救援活動に関する関係団体との調整 訪問先: 北海道YMCA総主事 黒田孝之氏 日本キリスト教団北海道サハリン特別委員会委員長 山本光一氏 北海道サハリン友好交流協会常務理事 森川伸一氏 今後の方向性: ・北海道YMCAを中心とする各キリスト教界のグループとの包括的なネットワークの立ち上げと関連させて、ここが進める継続的救援活動への支援。 ・サハリン現地への支援としては、ユジノサハリンスクにおける被災者復興支援への連携をはかる。具体的には現地訪問を通して、ロシア正教会等のキリスト教界などと進められるネットワーク活動への支援。
1996/2/6,7	サハリン報告会「サハリンは今」 共催:神戸YMCA 会場:西宮YMCA(6日)、NGO連絡会議(7日) 時間:18:30~20:30 内容: 現在も被災者の支援活動を続けているロシア・サハリン教会の金完一牧師夫妻より、父母を失った子供たちのケアやサナトリウム訪問活動の様子などの話があった。弱い立場の人々と如何に共に生きていくかという事は、阪神大震災と共通の息の長い支援が必要であるとの確認がなされた。 参加人数:西宮YMCA(31人)、NGO連絡会議(35人)
2/19~29	草地代表、ロシア・北海道出張 目的:サハリン緊急救援活動フォローアップ 訪問先: ハバロフスク……行政府社会防衛局・儀典部・移住管理局、日本領事館、サハリン被災者 ユジノサハリンスク……ユジノサハリンスク教会、ロシア正教会、州政府、避難者、ロシア三育大学 北海道……日本キリスト教団北海道サハリン支援委員会、北海道YMCA黒田氏、佐藤氏、国際協力委員会 今後の支援について: サハリンへの直接支援については、地元の支援グループに委ねるのが良い。 間接支援としては、昨年11月北海道YMCAなどが実施した青少年交流への支援が望ましい。サハリンの教会ネットワークと被災者ネットワークがつながり、北海道の支援グループと連携ができるよう資金を委託する。 その他(サハリン)區區の説明: 被災状況……3,200人の村で2,403人(氏名不詳544人)の死亡、約800人の生存者、74人の子供が両親を失い、なお75人が重度の後遺症に悩まされている。(内2人は日本で治療) 支援状況……救援保障一世帯当たり5,000万ルーブル、総計4億6,000万ルーブル 恒久住宅供与ユジノサハリンスク152家族、大陸51家族 なお253家族が政府の支援を待っている。 *残りの人々への支援を早く進めたいと語った。

協力して下さった方(順不同・敬称略)

1995.6.1~12.29

匿名、阪和優、角野美智子、中野早恵、小西幸代、西尾香織、高野隆三、利光早苗、横尾聡、浅田輝子、谷玲子、国司和宏、谷口昭子、出雲谷 恭子、今西浩子、鯛中善子、大西由紀子、岸野マキコ、松岡正信、明星修、河原、森早苗、平野美美子、山中朱美、岡田泰和、細川亮、湯本尚美、石川克己、前田益宏、橋本 穂子、山本香代子、青柳昌子、山中重人、朋子、渡辺洋子、柏木次郎、松尾健史、松尾和彦、みち、山田清美、甘粕進、中村悦子、ほろちい、か西宮参加者一同、笠置りか、山本まり子、若田暢子、大森英樹、鈴木博子、潮上義則、岡村典子、小島邦子、井伊カネ子、松浦友子、大谷ミチ子、柳田美枝、安藤直行、内田香織、楠田千代、伊東朱音、赤尾 希子、大森 希子、かんばら淡路島復興ボランティア支援センター、深田 昇、柳 文子、藤内幸治、前山 秀子、田口 信、河本知穂、中井美沙子、吉田 耕三、溝崎 貴子、時本 敏子、西島 康恵、宮田 康、重内 由紀、園本 美恵、浦川 秀久、宮本 菊恵、船田 雄一、アジア市民フォーラム(95/10)実行委員会、早川 黒江、八木 久栄、(財)神戸学生青年センター、なかた支援ネットワーク、矢野 真人、豊水カトリック教会、貞富 信裕、園川 紀子、山本 大介、小林聖心女子学院事務室、浜 美穂、森 誠、藤井 輝子、小林聖心女子学院、森川 寛一、向井 伸二、松本 純二、生活協同組合 コープス、服部 真一、高須 峰生、浅田 謙三、河野 智子、村津 好春、鹿島 勝、神原 恵子、内海 久志、船越 史子、谷口 豊子、AHI職員有志、名本 正明、水沢 結里子、岡田 愛好、山岸 容子、森田 秀枝、繁村 和子、山本 由紀、御興 哲也、岩崎 隆士、松田 晃知、歌志、岡本 泰一、榎本 恵一、被災障害児者支援の会、島本 啓子、竹内 まり子、東洋聖公会婦人部、松崎 玲子、額田 康伸、木村 健三、但馬 尚子、中村 かつや、天野 東太、西原 敏、坂本 浩孝、平山 隆史、岩屋公園テニスコ、長岡 一英、小林聖心女子学院小学校奉仕部、松蔭高校、中学GSF部、服部 茂子、日本キリスト教団武庫之荘教会、日本キリスト教団飛田伝道所、すたあ長岡、FHD協会、兵庫県児童保健所、カトリック中山手救援センター、カトリック豊取教会、中央区ボランティアセンター、河内 久美子、井上、都市生活生活協同クラブ連合会、向井 真二、村井 浩、木村 俊司、クレーンクラブ、ふかおか協会の支部、魚留 信子、岩屋教会、白井松新軍(株)、神戸大学消費生活協同組合、三宅 和郎、岡田 賢三、大田 菜穂子、日本キリスト教団 明和、のぞみ保育園、遠坂 史代、遠藤 勝巳、日本バプテสต์連盟震災対策現地支援センター、柴田 美恵、尼崎バプテสต์教会、古谷 圭子、日本キリスト教団兵庫松本通教会、光本 賢一、礼子、宮島 寛、追越 健策、経費老人ホーム長寿園、秋元 靖史、枝川 豊、藤原 京子、中嶋 敏子、玉島北中学校、都市生活生活協 現地救援本部(3回)、梁 勝則、竹下 美恵子、長岡ボランティアセンター、清水 勝(7回)、山田 良雄、杉山 百合子、渡井 佐江美、日本キリスト教団相生教会、阿部 みつ子、加藤 春江、日本キリスト教団 甲子園教会、原田 直紀、山村 博志、大塚 清隆、紫波第二中学校生徒会、姫路あけぼの伝道所、旭邦一哉、古谷 久、藤原 桃花、穂ノ口小学校、増田 和代、大森 山本、戸田 全、加藤山、菊池 由紀子、劉 長い、志方 史、高桑 佳代、黒田 喜美、港島中学校、高野 喜代寿、村本 清春、谷口 公夫、日本キリスト教団神戸平安教会、吉村 一哉、古谷 子、南波 百々子、一瀬 じゅん子、西畑 美子、(有)光成物産、奈良 充康、岡村 達郎、彌生短大クリスチャン・フロンティア、米谷 康夫、渡部 慎、籠田 麻子、巨瀬 典子、松田 陽子、富阪 浩一、ふかおか協同、田村 圭子、今井和雄、深沢 文雄、中島 史朗、森崎 美奈子、私津 美歩、福祉 理恵、NGO地球交流委員会、小佐 麻里子、松本 君枝、村瀬 泰雄、日本バプテสต์連盟奈良キリスト教会、鶴山大学流行音楽倶楽部 軽音楽倶楽部、松田 康之、アドラ神戸支部、井上 美智子、松枝 正明、名取 光広、加藤 美紀、大阪YMCA専門学校、並川 恵、山田 浩三、日本基督教団愛生伝道所、コッパン、大野 修三、武内 香代子、八代 尚子、神戸西バプテสต์教会、浅田 洋子、西山 明子、富田 彩子、豊取中学校生徒会、山中 喜代子、関西電力、浅羽 千之助、大隈明星中・高等学校、渡里 泰子、山口 麻里、(株)ナキ、大阪ガスボランティアサークル、神戸YMCA救援センター、阪神大震災ちびくろ救援ぐるうぶ、神戸市、アジア医師連絡協議会

サハリン地震支援活動会計報告

収入		支出	
一般寄付金(313口)	9,670,783	共同事業分担費	5,371,116 (AMDAへ)
指定寄付金(1口)	7,676,420	事業費	9,461,475 (A)輸送経費 7,676,420・物資海上輸送 1,785,055・物資国内・サハリン州内輸送 7,676,420
日本内国航海運組合総連合会より		(B)青少年交流支援費	1,800,000 (300,000)・ロシアサハリン教会へ 1,500,000・北海道YMCAへ
共同事業分担金 AMDAより	1,785,055	連絡調整事務費	(A)連絡調整出張費 740,731 76,513・北海道(草地)95/9/27~9/29) 23,610・東京(白鳥)95/9/12~9/13) 368,854・サハリン・北海道(草地)96/2/18~3/1) 航空運賃など 271,754 同上、調査費・滞在費など
		(B)事務経費	468,375 (事務消耗品・通信費・資料費など) 1,200,000 (¥80,000×3ヶ月×5名)
		管理費	人件費
計	19,132,258	合計	19,041,697
		差引(残高)	50,591

(注)報告書作成および郵送料に充てる
 ただし1996年3月末日現在の残金は北海道YMCAに寄付の予定